る国、肉食文化と米食文化の差に起因する食肉に対する考え方の違い、それぞれの地域で最重要に取り組まなければならない家畜疾病の問題などの背景に加えて、各国の診断技術のレベルや診断施設の整備状況も様々です。

かつては、東南アジア各国では、動衛研とも連携、協力関係を有する研究所が多数ありましたが、その関係は次第に疎となりつつあるようです。各国の研究所に設置されている解析機器、施設にはわが国の支援により整備されたものが多数ありますが、その後の継続的な技術協力の完了により、他国の研究所がそれらの機器を活用して遺伝資源の探索や技術援助を行っている例もみられます。

OIEはRLに特別な予算を配分しておらず、そのボランティアによる活動には限界がありました。動衛研のCCとしての認定は、今後の国際協力の在り方について見直すとともに、他の国と実施中の共同研究・技術協力を発展させる格好の契機でもあります。動衛研ならびに関係する相手国ともに有益となる協力関係を維持していくには、研究所をあげての戦略、支援が必要と考えます。

TOPICS

第９回産学官連携推進会議（科学・技術フェスタ in 京都）に参加・出展

６月５日、国立京都国際会館で第９回産学官連携推進会議－科学・技術フェスタ in 京都－（主催：内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省等）が開催されました。会議には大学や独法研究機関を中心に5,000人を超える参加がありました。本年から１日限りの開催となりましたが、鳩山由紀夫前内閣総理大臣のメッセージ、川端達夫内閣府特命担当大臣の基調講演や特別講演、企業・大学・研究機関・自治体等の研究開発成果の出展がありました。当所は農研機構の４つの研究所と共に出展し、産学官連携推進委員を中心に４名が民間企業等との共同研究成果４点について、ポスター・製品展示を行うと共に資料配付を行いました。当所のブースには奥原農林水産技術会議事務局長をはじめ多くの訪問がありました。

研究成果についての質問の他、丁度、宮崎県での口蹄疫の発生があったことから動物衛生についての質問が多く、当所に対する期待の大きさをあらためて実感した１日でした。

（八木研究管理監）